

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (甲信越)	◎	その他サービス [葬祭業] (経営者)	お客様の様子	・今月は過去最高の葬儀件数である。これまで過去最高だった時の倍の依頼が入り、非常に忙しかった。また、各種相談や依頼もたくさん受けている。
	○	商店街 (代表者)	販売量の動き	・学校販売が始まったが、前年並みで余り落ち込みがない。学校の物は必需品なので、助かっている。
	○	スーパー (経営者)	競争相手の様子	・前年比では売上は5%増加、来客数は7%減少となっている。原因はよく分からないものの、2月はさほど忙しくなく、平均していたようである。3月末に、近隣大型スーパーが閉店するため、その店舗の顧客、取引銀行などから注文が来ている。4月から病院の売店の仕事も増えるため、忙しくなる。
	○	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・今年は比較的、降雪がほとんどなかった。雪が降ると客足が悪くなるため非常に有り難い。春に向かって好天になるため、期待できる。
	○	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・高級食材を使ったメニューの予約は多く、売上は上がっているものの、予約のない日は通常より売上は少ない。
	○	タクシー (経営者)	お客様の様子	・イベント開催が多数あり、それに伴い、人が動いている様子が見受けられる。
	○	その他レジャー施設 [ボウリング場] (経営者)	来客数の動き	・団体予約客は減っているが、週末や祝日は家族連れや若者等の一般客の来店が増えている。
	□	一般小売店 [家電] (経営者)	お客様の様子	・相変わらず商材の動きは静かで、依頼される業務も少ない。食品のほか、日常生活に必要な物の値上がり等にかき回されているようで、消費意欲が抑えられている状況がうかがえる。
	□	スーパー (経営者)	来客数の動き	・豪雪の前で来客数が増加し、まとめ買いをしている。
	□	コンビニ (経営者)	単価の動き	・客足は減少傾向にあるが、客単価は前月と横ばいである。客単価で補っている状況である。
	□	家電量販店 (店長)	来客数の動き	・降雪の影響もあり天候不良の際は、集客が大幅に落ち込んでいる。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・今月の車検、一般整備は、前月の1.5倍程度に増加しているが、これは季節要因もある。車両販売は物価高騰により様子見といったユーザーが多く、販売には結び付かない。
	□	自動車備品販売店 (従業員)	来客数の動き	・客単価は前年を超えているものの、来客数が前年を割っている状況が続いている。
	□	その他専門店 [酒] (店長)	販売量の動き	・販売量自体は、3か月前とは比較できないところもあるが、前年実績をかなり超えている。ただし、物価上昇に関連している部分もある上に、客自体の2極化が非常に進んでいる。価格上昇を受け入れるところがある一方、飲食店は非常に厳しい状況だとよく聞いている。東京の客や飲食店は非常に好調で、販売量の動きを見ても、2極化が鮮明になっている。
	□	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・天候の影響がかなりある。
	□	観光型旅館 (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前と同じくらい客が来ている。地元客の需要が減少している代わりに、インバウンドが増加している。また、単価が上がっているため、客数は新型コロナウイルス感染症発生前と同程度だが、売上は増加している。ただし、食材、燃料、人件費等が高騰しており、売上が増えても利益は変わらない。
	□	旅行代理店 (副支店長)	お客様の様子	・来店客の旅行相談や申込み等、数量的には変わらないが、一般企業の旅行は下向き傾向となっている。
	□	通信会社 (社員)	販売量の動き	・転居のピークはまだ先なので、比較的静かな状況である。

	□	観光名所（職員）	それ以外	・連日、首都圏からの特急列車が満席で当地に来るほど、来客数は増加している。ただし、乗客の9割は外国人で、特定の地域、需要に限った好況であるため、波及効果はみられない。固定費や物価の上昇が著しく、収入が追いついていない。
	□	遊園地（職員）	来客数の動き	・閑散期ではあるものの、天候に恵まれた日も多く、冬特有のイベントや情報発信を積極的に行っている。
	□	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・まだ冬季クローズ中だが、予約状況は前年と変わらない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・3か月前と同様で、価格を下げれば集客はできるが、上げると途端に難しくなる。
	□	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・物価高による工事費の増額で、予定案件が中止又は延期になることが増えている。
	□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今年は例年以上の厳しい寒さで、別荘に来る客が少ない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上不振を寒波のためだというのは簡単だが、暖かくなっても売れる見通しがあるわけではない。アーケード街の歩道に人影があることの方が少ない。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・前年行われていた行政主導の景気刺激策が今年はないため、2月は前年比では大幅に落ちている。
	▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・2月前半に記録的な大雪に見舞われたことで、来客数に影響があった。また、野菜類や燃料価格の高止まりが消費マインドを冷え込ませている。バレンタインデーのチョコレート商戦はまずまずだったものの、衣料関連、特に紳士衣料の動きが鈍い。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高やエネルギー高騰により、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・競合店の出店があり、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・主要商材の値上げが続いており、おにぎりであれば1～2割、他の商材も同様に値上げしている。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・当地ではさほど降雪は多くなかったのですが、気温がかなり低く推移したため、客の入りが少し厳しかった。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・大雪の影響で、来店客が大幅に減少し、新車販売も2割程度落ち込んでいる。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・12月、1月は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの流行に、物価高による消費控えが重なって最悪だった。今月は感染症等は収まり、前月より良くなっているが、やはり物価高が重すぎる。来客数も今一つで、仕入額が上がっていてもなかなか価格転嫁もできない。デフレは終わらせてほしいからと2～3年かけて物価が上がるならよいが、米価が前年の2倍というのはさすがに無理である。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・天候そのものなのか天候に関する報道の影響か分からないが、来客数が大幅に減少している。天候が回復してからも物価高の影響が客足は非常に鈍い。前年の能登半島地震の影響があった頃よりも来客数、売上共にマイナスとなっている。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・日中の運行回数はまずまずだが、夜の動きが今一つというか、非常に悪い。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・米価が高くなり、以前よりも買上点数が伸びない。セール日にまとめて購入する傾向があり、複数店舗を買い回る人も少ないのではないかとみている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今月は、やはり季節要因が大いに影響している。3か月前の11月は行楽シーズンで、県内外の客が来館していたが、2月に関しては大雪等で宿泊客数はかなり減っている。そのため、レストランの来客数も落ちている。また、米価等を始め物価高で、行動を抑えているとみている。
企業 動向 関連  (甲信越)	◎	電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・何とか受注を確保できている。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・店頭向け商材の受注量が、やや多くなっている。

	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候が春らしくなってきたので、工事の問合せが時々入るようになっている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・非製造業は、観光関連でインバウンド需要の増加から高水準を維持している。一方、製造業は受注の回復が遅れており、コロナ禍以降の持ち直しはあるものの、足踏み状況が続いている。
	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・観光業はインバウンド需要があり、順調に推移している。人手不足により対応し切れない状況でもある。製造関係では関税及び円安から円高への不透明感から、更に厳しさを増す懸念を含んでいる。
	▲	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・地金の高騰から地金価格を気にする客が増えており、なかなか購入につながらない。材料高で1点単価が上がっており、売上は辛うじて前年より若干のマイナス程度だが、販売数は大きく下回っている。
	×	食料品製造業 （営業統括）	受注量や販売量の動き	・ガソリン価格の高騰等で来場者数は減少し、売上金額の落ち込みが顕著である。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・生産量が激減している。他の企業でも受注が減ったという話をよく聞く。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・半導体関連企業の復調や、インバウンドを始めとした観光需要の高止まりで、やや良くなっている。
	□	人材派遣会社 （営業担当）	求職者数の動き	・正社員募集に応募が集中しているものの、条件等が想定と違ったために退職し、再度就職活動をする人が多い。就職支援講座にも人が集まらず、学校も苦勞している。そのためか、応募者のスキルが上がらない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・外出機会の増加、観光や宿泊、イベント、工事等での需要増加から、関連する業種である建設、食品製造、洗濯、美容、飲食店、警備、ビル清掃等の求人は堅調である。当面、景気の停滞ムードは続く。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・現場ワーカーの求人数は多いものの、技術職、専門職の求人採用は、慎重な姿勢が続いている。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—